

英会話初級

(選択2単位) 2年前期

DON GUAN CAO*

授業テーマ・内容

この授業では実用的な日常英会話を練習します。穴埋め文章問題はリスニング、カルチュラルヒントは海外の文化の違いを理解する、またペアワークはスピーキング能力の向上と流暢さを伸ばすための練習です。

Cultural Hint のページについては、課題を与えられることがあるので、インターネットなどを利用して異文化の習慣等について調べておくこと。

予習は毎回の授業までに数ページ分の単語、発音、文章の意味などを調べる。授業中は出来るだけ大きな声で発話すること。また、会話力の上達は反復練習によって習得されるため、授業外での復習が非常に大事です。テキストに出てくるフレーズは基本的な会話の文章なので覚えるくらいまで声を出して練習するように。

到達目標・ねらい

このコースのゴールは一般的な英語の読む、聞く、書く、話すの全てにおいて学生の理解力と自信を向上させることと同様に、実用的な英会話技能を向上させることです。日常のシーン別に自然で状況にふさわしい会話が出来るようになるのがねらいです。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	“Introductions”	Unit 1, pp. 1-2	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第2週	“Introductions” (cont...)	Unit 1, pp. 3-5	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第3週	“Story” & “Speaking Practice”	Unit 1, p. 6	予) 穴埋めの推測 復) 口頭での反復練習
第4週	Various Exercises	Unit 1, pp. 7-8 / Unit 3, p. 1	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第5週	“What Do You Do In Your Free Time?”	Unit 3, p. 2	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第6週	“What Do You Do In Your Free Time?”	Unit 3, p. 3	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第7週	“Story” & “Speaking Practice”	Unit 3, pp. 4-5	予) 穴埋めの推測 復) 口頭での反復練習
第8週	Various Exercises	Unit 3, pp. 5-6	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第9週	“The Good Listener”	Unit 4, pp. 1-3	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第10週	“Making A Phone Call”	Unit 5, pp. 1-3	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第11週	“Making A Phone Call” (cont...)	Unit 5, pp. 4-5	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第12週	“Story” & “Speaking Practice”	Unit 5, pp. 5-6	予) 穴埋めの推測 復) 口頭での反復練習
第13週	Various Exercises	Unit 5, pp. 8-10	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第14週	Time Expressions	Unit 6, pp. 1-2	予) 答えの練習 復) 口頭での反復練習
第15週	Review Test		

成績評価の方法・評価基準

期末試験	—%
中間試験	—%
小テスト	40%
レポート	—%
演習課題	—%
平常点	60%

テキスト

Speak Easy in Daily Conversation
J. Metheny Sun Mihall Language Service

参考書

履修条件・備考

生涯スポーツ

(選択2単位) 2年前後期

村上弘一、行森祥子*

授業テーマ・内容

生涯スポーツの生活化について、理論と実技を一体化させた演習形態で学ぶ。健康生活を営むために生涯を通して親しめる各種スポーツやレクリエーションスポーツなどの運動を体験学習する。生涯にわたるスポーツライフや心身の健康づくりにおいては、個人の年齢、体力、嗜好に応じたスポーツを選ぶ必要がある。そのための知識や技術を習得し、適切なスポーツ学習を通して幅広く経験し、社会生活におけるリーダーとしての資質と、心身ともに健康的な生活態度も合わせて学習する。

到達目標・ねらい

スポーツの実践を通して体力とスキルの向上を図り、生活の中に運動を取り入れる必要性を理解し、実践する基礎的能力を養うことを目標とする。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
【前期】			
第1週	ガイダンス	授業の概要説明	予)このシラバスをよく読んでおくこと。 復)授業で説明した授業概要を確認しておくこと。
第2週	導入	ストレッチング、柔軟体操、筋力トレーニング	予)柔軟体操を行っておく。 復)説明があったストレッチングの方法等を復習しておく。
第3週	各グループにおける種目選択	バレーボール・バスケットボール・硬式テニス・ソフトボール等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第4週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第5週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第6週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第7週	グループ対抗戦		予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第8週	各グループにおける種目選択	バドミントン・卓球・フットサル・サッカー等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第9週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第10週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第11週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第12週	各グループにおける種目選択	バレーボール・バスケットボール・硬式テニス・ソフトボール等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第13週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第14週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第15週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
【後期】			
第16週	ガイダンス	授業の概要説明	予)このシラバスをよく読んでおくこと。 復)授業で説明した授業概要を確認しておくこと。
第17週	導入	ストレッチング、柔軟体操、筋力トレーニング	予)柔軟体操を行っておく。 復)説明があったストレッチングの方法等を復習しておく。
第18週	各グループにおける種目選択	バドミントン・卓球・フットサル・サッカー等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第19週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第20週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第21週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第22週	グループ対抗戦		予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第23週	各グループにおける種目選択	バレーボール・バスケットボール・硬式テニス・ソフトボール等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第24週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第25週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第26週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第27週	各グループにおける種目選択	バドミントン・卓球・フットサル・サッカー等8種目	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第28週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第29週	〃	〃	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。
第30週	〃	〃 (レポート提出)	予)ルールを調べる。 復)ルール等よく理解しておくこと。

成績評価の方法・評価基準

期末試験	－%	小テスト	－%	演習課題	－%
中間試験	－%	レポート	40%	平常点	60%

テキスト

プリント

参考書

履修条件・備考

☆

日本語のはじまり			(選択2単位) 1年前期または2年前期	斎藤安輝
授業テーマ・内容 人類の発生と進化、言葉の獲得といった、人類学の初歩および、文学の発生や、漢字の伝来とその定着に始まる主に仮名成立以前の漢文による文学、「古事記」・「風土記」・「萬葉集」など平安以前の古代日本の文学と歴史の展開を、実際に毎回作品を通して具体的に学ぶ。				
到達目標・ねらい 個々の事項を知るといより、講義により得た知識から、「歴史とは何か」「文学とは何か」「人間とはどういう存在か」などということをも自発的に考えて答えを求める、「演繹的思考法」を身につけることが本講義の目指すところである。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第1週	文化と人類	人類にとって文化とは何か	予)文化の定義とは？ 復)ノートの整理と確認	
第2週	人類の誕生と進化①	猿人の誕生	予)霊長類とヒトの違いは？ 復)ノートの整理と確認	
第3週	人類の誕生と進化②	直立二足歩行	予)直立二足歩行はヒトに何をもたらしたか？ 復)ノートの整理と確認	
第4週	人類の誕生と進化③	親指の対向性	予)自分の手はどのようになっているか 復)ノートの整理と確認	
第5週	人類の誕生と進化④	道具の使用	予)道具とは何か 復)ノートの整理と確認	
第6週	モンゴロイドの大移動	原人の脱アフリカ	予)人種とは何か 復)ノートの整理と確認	
第7週	日本人のルーツ①	縄文人	予)縄文時代とは？ 復)ノートの整理と確認	
第8週	日本人のルーツ②	弥生人	予)弥生時代とは？ 復)ノートの整理と確認	
第9週	移動と定住	狩猟採集生活と稲作定住生活	予)生活のスタイルはどう違うか 復)ノートの整理と確認	
第10週	戦争と土地占有	戦争の起源と弥生時代	予)ヒトはなぜ戦争をするのか 復)ノートの整理と確認	
第11週	国占めと国見 -大王の土地占有-	『風土記』に見る土地占有説話	予)土地を占有するためには何をすればよいか 復)ノートの整理と確認	
第12週	無文字と口承 -カタリ文学	口承文学と漢字の伝来	予)文字を使わずに言葉を伝達する方法は？ 復)ノートの整理と確認	
第13週	国生み神話 -日本のはじまり-	『古事記』の国生み神話	予)どのような日本神話を知っているか 復)ノートの整理と確認	
第14週	古代の死生観① 黄泉国	日本人は「死」をどのように考えているか	予)「死」と「生」の違いは何か 復)ノートの整理と確認	
第15週	平常試験			
成績評価の方法・評価基準 平常試験(完全論述式) 80% 中間試験 —% 小テスト —% レポート —% 演習課題 —% 平常点 20%			テキスト 新日本文学史 秋山虔編 文英堂 随時プリント配布 参考書	
履修条件・備考 平安遷都以前の初歩的な日本史の知識を要す。				

技術者倫理		(選択 2 単位) 1 年前期または 2 年前期		古石喜郎*
授業テーマ・内容				
「技術者倫理」が、技術者教育に欠かせない科目とされるようになってきました。なぜ、技術者の倫理が問題になるのでしょうか。それは、技術が社会や自然におよぼす影響や効果が大きな社会的な関心事になっているからです。たとえば、技術開発は私たちの生活を快適に便利にするというだけではなく、一方で、CO2環境問題をはじめさまざまな負の作用の出現にも深く係わるからです。そのため、技術者は専門的な能力に加え、その技術が社会や自然に及ぼす影響を考える高い倫理性が要求されることになります。つまり、技術者は社会に対して、環境や安全に関する特別の責務を負う職業との意識を持つことが求められます。 この授業では、企業組織における技術者を考えながら、技術者の責務、安全性の確保、環境問題などについて理解を深めてゆきます。そして、技術者が保有しておくべき法的知識として、製造物責任(PL)法や知的財産権などについて学びます。				
到達目標・ねらい				
技術者に求められる素養(技術者倫理、安全・安心、環境問題や知的財産権・PL 法に関する法律知識など)が身につきます。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第 1 週	ガイダンス	授業内容の説明、授業の進め方	予) テキストのまえがきの記述を理解する。 復) 技術者倫理の学習の意味をまとめる	
第 2 週	技術者倫理が問題	技術の発展、技術の負の作用	予) テキスト第 1 章をよく読んでおく。 復) 技術者に要求される倫理を考える。	
第 3 週	倫理とは何か	モラル、倫理、規範、法律との関係	予) テキスト第 2 章をよく読んでおく。 復) 倫理と法律の補完関係を理解する	
第 4 週	技術者とはなにか	プロフェッション、資格制度、技術士	予) テキスト第 3 章の専門職を調べる 復) 自立した専門職の仕事を考える。	
第 5 週	技術者倫理と企業倫理	利益相反、事例研究: チャレンジャー号事故	予) テキスト第 5 章をよく読んでおく。 復) 経営論理と技術者の倫理を理解する。	
第 6 週	内部告発の倫理 (1)	内部告発とは、公益通報者保護法	予) テキスト第 6 章をよく読んでおく。 復) 内部告発の問題点を整理する。	
第 7 週	内部告発の倫理 (2)	事例研究: ギルベインゴールドの視聴	予) WEB でギルベインゴールドを調べる。 復) 内部告発の許される条件を考える。	
第 8 週	製造物責任(PL) 法 (1)	PL 法、注意義務、過失とは	予) テキスト第 7 章をよく読んでおく。 復) 技術者の注意義務を理解する。	
第 9 週	製造物責任(PL) 法 (2)	欠陥の定義 小テスト	予) テキスト第 7 章の欠陥を予習しておく。 復) 設計、製造、表示上の欠陥を覚える。	
第 10 週	知的財産権と営業秘密	知的財産権の考え方、営業秘密	予) テキスト第 8 章をよく読んでおく。 復) 工業所有権を理解する。	
第 11 週	安全性とリスク	安全設計、リスクの考え方	予) テキスト第 9 章をよく読んでおく。 復) リスクとは、安心と安全を整理する。	
第 12 週	安全規格	国際機械安全規格、安全確保の考え方	予) 国際機械安全規格を調べる 復) 本質安全設計、残留リスクを理解する。	
第 13 週	環境・資源の倫理	地球環境問題、持続可能な社会	予) テキスト第 10 章をよく読んでおく。 復) 環境倫理、持続可能社会を考える。	
第 14 週	リサイクル	リサイクル設計、3R とは	予) テキスト第 19 章をよく読んでおく。 復) 3R を考えたリサイクル設計を理解する	
第 15 週	総合まとめ	これからの技術者	予) 講義全般で重点項目をまとめる 復) 講義全体を復習し、期末試験に備える。	
第 16 週	期末試験			
成績評価の方法・評価基準			テキスト	
期末試験	70%		技術者の倫理	
中間試験	－%		林 真理、宮澤健二、小野幸子ほか著 コロナ社	
小テスト	20%		配布プリント	
レポート	－%			
演習課題	－%		参考書	
平常点	10%			
履修条件・備 考				

くらしと法律		(選択2単位) 1年後期または2年後期		水野浩児*
授業テーマ・内容				
我々の生活は様々な法律で囲まれている。また全ての法律が全ての人に関係するわけではない。場面場面により関係してくる法律には違いがでる。 法律を大きく大別すると、市民としての生活に関する法律と、国民としての生活に関する法律とに分れる。前者を私法の領域、後者は国と国民の関係を定めた公法の領域である。私たちの日常のくらしにおいては、私法に関する法律が関係してくることが多い。私法の基本法は民法であり、民法を中心に学習することで、市民生活において法的な知識や経験がいかに大切かを学んでいく。 また、時事問題は法的な問題を含んでいることが多く、状況に応じ、新聞等に掲載された時事問題を取り上げ検討していく。 法律は意外と身近なものである事に気付き、みなさんの生活に少しでも役に立つ講義になることを目標に取組む方針である。 また、日常生活における法律関係を自然と意識できるレベルになってもらいたい。				
到達目標・ねらい				
受講生が日常生活には網の目のように法律関係がある事を理解し、契約についての最低限の知識を身につける。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第1週	くらしをとりまく法律	日常生活においても、身の回りにたくさん法律がある。	予)新聞などで身近な法律に関する記事探す 復)身近な契約を見つけ、まとめる	
第2週	権利の主体性と民法の基本原理	民法の基本は何かについて学び、人は契約等の主体であることを確認する。	予)教科書p13を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第3週	権利の主体性と民法の基本原理	所有権絶対の原則・私的自治の原則・過失責任の原則について学ぶ。	予)教科書p8－p9を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第4週	意思能力・行為能力・責任能力	契約に必要な能力について確認する。	予)教科書p15を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第5週	意思能力・行為能力・責任能力	制限行為能力者制度について学ぶ。	予)教科書p18を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第6週	権利の客体	契約の対象となる物について学ぶ。	予)教科書p81－p82を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと。 身近な動産についてノートにまとめること。	
第7週	物権	所有権をはじめとした、モノに対する権利について学ぶ。	予)最近購入した物についてどのような契約をしたか考えておくこと。 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第8週	法律行為と契約の法理	契約成立の要件とその効果について学ぶ。	予)教科書p91を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第9週	契約の種類	民法に定められた典型契約について学ぶ。	予)売買契約・賃貸借契約について身近に経験したケースをまとめておくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第10週	事務管理・不当利得・不法行為	契約以外の債権の発生原因について学ぶ。	予)意思表示(教科書P100)を熟読し、まとめておくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第11週	契約における意思表示	意思の不存在・瑕疵ある意思表示等、不完全な意思表示について学ぶ。	予)教科書p100－p101を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第12週	代理制度	現代社会における代理制度の役割や、無権代理・表見代理について学ぶ。	予)教科書p132－p133を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第13週	時効制度	取得時効や消滅時効などについて学ぶ。	予)教科書p205を読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第14週	民法とその他の法律の関係	くらしに関係する様々な法律を紹介する。	予)新聞で税制改革に関する記事を探し読んでおくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと	
第15週	税法と日常生活	税金とくらしとの関係を税制改正案を基に説明する。	予)2016年度税制改正案を調べておくこと 復)講義内容を200字程度でまとめておくこと。 暮らしに影響が大きい税制についてまとめること。	
第16週	期末試験			
成績評価の方法・評価基準			テキスト	
期末試験	80%		民法講義1総則〔補訂第2版〕 高森八四郎著 法律文化社	
中間試験	－%			
小テスト	－%			
レポート	－%		参考書	
演習課題	－%			
平常点	20%			
履修条件・備考				
コンパクト六法等、小さな判例要旨集を用意してもらう。				

現代社会論		(選択2単位) 1年後期または2年後期		岡尾将秀*
授業テーマ・内容				
本講義では、現代社会を構成する基本的な集団・組織において、どのような営みがおこなわれているかを明らかにします。第1に現代の核家族において、どのような子育てと介護が営まれているかを理解します。その上で、これからの子育てと介護がどのような形態の家族で、どのように営まれるようになるかも考えます。第2に現代の企業において、どのような産業が、営まれているかを理解します。その上で、これからの産業がどのような組織で、どのように営まれるようになるかも考えます。第3に現代の国民国家において、どのような福祉が営まれているかを説明します。その上で、これからの福祉がどのような地域社会において、どのように営まれるようになるかも考えます。				
到達目標・ねらい				
現代社会の基本的な仕組みがどのように造られてきたかを理解することによって、現代社会が直面している主要な課題を把握し、解決策を模索する。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第1週	ガイダンス	講義内容の概要	予)シラバスに目を通し、授業概要を把握しておくこと。 復)説明のあった授業概略を確認しておくこと。	
第2週	核家族の時代	核家族形成を可能にした高度経済成長時代の社会状況について説明	予)自分が育った家族の形態を考える。 復)核家族の特徴を確認する。	
第3週	核家族の役割	核家族での育児と介護を可能にしている性別役割分業について説明	予)自分の両親の仕事について考える。 復)性別役割分業の成立条件を確認する。	
第4週	核家族の困難	核家族での育児と介護が困難になっている社会状況について考察	予)自分が育った家族の抱える困難について考える。 復)核家族が機能しにくい社会状況を確認する。	
第5週	代替家族の模索	これからの子育てと介護を担う家族の作り直しについて考察	予)両親がいなければ、誰に育ててもらいたいかを考える 復)血縁のない親子関係の善悪を確認する。	
第6週	工業の情報化	「情報システム財」の生産について説明	予)近年の工業で起こっている変化について調べる。 復)工業で重要になっている情報の特徴を把握する。	
第7週	雇用の流動化	限定された成果を求められる非典型雇用の増加について説明	予)正規雇用が難しいのはなぜか考える。 復)非典型雇用のデメリットとメリットを確認する。	
第8週	仕事の多様化	女性や外国人による就業と男性の新たな仕事について考察	予)ある生産を実現するためにどのような仕事が必要か考える。 復)女性、外国人、男性といった属性の違いによる働き方の違いを確認する。	
第9週	これからの協働	多様な働き方をする人びとがどのように協力すべきかを考察	予)多様な働き方の統合の困難について考える。 復)多様な働き方が統合される条件を確認する。	
第10週	福祉国家の仕組み	政府による就労者を中心とする社会保障について説明	予)自分が福祉についてどのようなイメージをもっているかを考える。 復)先進諸国に普及している社会保障制度の特徴を確認する。	
第11週	福祉国家の修正	政府による福祉が困難になっている状況について説明	予)自分の家族は国家において、どのような福祉を受けてきたかを考える。 復)近年の子育てや介護への支援の成否を把握する。	
第12週	地域社会福祉の拡充	専門家以外による就労者以外の人びとへの支援について考察	予)ボランティアについてどのようなイメージをもっているかを考える。 復)ボランティアの必要について確認する。	
第13週	相互扶助の活性化	困難を自覚する当事者同士の助け合いについて考察	予)自分がどのような困難を抱えているかを考える。 復)自助グループの特徴を確認し、実際にどのようなものがあるか調べてみる。	
第14週	社会主導の高度産業化	産業の質を高める社会的条件について考察	予)家族、企業、国家が今後どのように変化すればよいかを考える。 復)高度産業化を促す社会変動を予想する。。	
第15週	総復習	まとめと補足	予)ノートに目を通してくる。 復)各講義をまとめる短文を作る。	
第16週	期末試験			
成績評価の方法・評価基準		テキスト		
期末試験	40%	特に指定せず、必要に応じてアウトラインを提示し、資料を配布する。		
中間試験	－%	参考書 参考書として古城利明・矢沢修次郎編『現代社会論[新版]』有斐閣Sシリーズ、見田宗介著『現代社会の理論——情報化・消費化社会の現在と未来——』、内海博文編著『現代社会を学ぶ——社会の再想像＝再創造のために——』ミネルヴァ書房を使用。		
小テスト	－%			
小レポート	30%			
演習課題	－%			
平常点	30%			
履修条件・備考				
セクションを終えるごとに、小レポートを提出してもらう予定です。				

授業テーマ・内容

本講義では、キャリア発達、集団特性、集団内の影響、安全と事故といった産業心理学の基礎的なテーマを中心に講義を行う。
 具体的には、仕事への態度(モチベーションや職務満足、組織コミットメント)や人間の集団行動の特性(集団心理)、対人関係(リーダーとフォロワーの関係や、上司と部下の関係など)、また、職場のストレスにより生じる精神疾患(うつ病、心因性精神疾患、バーンアウトなど)や離職(若年者の早期離職・転職など)、安全と事故(ハインリッヒの法則など)がどのようなものであり、その原因となる要因は何かを学ばせる。こうした諸問題についての理解を深めた上で、将来の職業生活(ワーク・ライフ)に向けて自らのキャリア発達について考える。

到達目標・ねらい

受講者には、これから迎える、あるいはすでに迎えている職業生活のために、職場集団における人間の行動と心理について基礎的な心理学の考え方を習得する。これらの学習を通して、最終的には、本講義で身につけた知識を活用し、自らの職業生活をどのように営むかを熟考する。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
第1週	オリエンテーション	心理学とは	予)シラバスの熟読 復)産業心理学以外の心理学について調べる
第2週	ワーク・モチベーション	仕事のやる気を高めるには	予)モチベーションについて 復)モチベーションに関する理論やモデルの理解
第3週	職務満足と組織コミットメント	仕事のやりがい	予)職務満足と組織コミットメントについて 復)職務満足と組織コミットメントに関する理論やモデルの理解
第4週	職場のストレスとメンタルヘルス①	ストレスのメカニズム	予)ストレスやコーピングについて 復)ストレスやコーピングに関する理論やモデルの理解
第5週	職場のストレスとメンタルヘルス②	精神疾患と離職	予)精神疾患や離職について 復)精神疾患や離職に関する理論やモデルの理解
第6週	集団の特性①	NASA ゲーム	予)集団の心理について 復)NASA ゲームの結果から集団合議の有益性を考える
第7週	集団の特性②	同調と規範	予)同調やマイノリティインフルエンスについて 復)同調やマイノリティインフルエンスに関する理論やモデルの理解
第8週	集団の特性③	集団心理	予)集団合議や集団・他者の存在の影響について 復)集団合議や集団・他者の存在の影響に関する理論やモデルの理解
第9週	集団内の影響①	影響過程	予)勢力や影響について 復)勢力や影響に関する理論やモデルの理解
第10週	集団内の影響②	古典的なリーダーシップ論	予)古典的なリーダーシップについて 復)古典的なリーダーシップに関する理論やモデルの理解
第11週	集団内の影響③	新たなリーダーシップ論	予)交流型と変革型のリーダーシップについて 復)交流型と変革型のリーダーシップに関する理論やモデルの理解
第12週	組織事故と安全	安全社会を目指して	予)ヒューマンエラーや安全文化について 復)ヒューマンエラーや安全文化に関する理論やモデルの理解
第13週	キャリア発達①	キャリア発達の理論	予)キャリア発達について 復)キャリア発達に関する理論やモデルの理解
第14週	キャリア発達②	自らのキャリア発達を考える	予)自分の将来(したい仕事など)について考える 復)講義中に行うワークをもとに自らのキャリアを再考する
第15週	メンタリング	キャリア発達に必要なこと	予)メンタリングについて 復)メンタリングに関する理論やモデルの理解
第16週	期末試験		

成績評価の方法・評価基準

期末試験	60%
中間試験	—%
小テスト	—%
レポート(または試験)	25%
演習課題	—%
平常点	15%

テキスト

参考書

「よくわかる産業・組織心理学」
 山口 裕幸・金井 篤子 ミネルヴァ書房

履修条件・備考

講義を受けるにあたり、必ずノートを取るようにしてください。
 また、予習には心理学の辞典や上記の参考書、その他の心理学関連の書籍を活用することを推奨します。

社会と経済のしくみ

(選択2単位) 1年前期または2年前期

荒井敏男*

授業テーマ・内容

現代の経済社会のしくみと問題点について理解するために、前半では経済学の基礎知識と歴史を学ぶ。言わば、「しくみ」についての学習である。具体的には、基礎知識では市場のメカニズムの理解を中心に学び、歴史では第2次世界大戦後の日本経済の歩みを振り返ってきたい。

後半では、経済社会における諸問題について考察する。例えば、経済成長至上主義の限界が多くの経済学者によって言われているが、現実にはアベノミクスのような新自由主義的な経済政策の運営がなされている。この現行の経済政策の問題点は何か、など時事的で重要な事項を取り上げて、学生諸君とともに考えていきたい。

到達目標・ねらい

授業を通じて、学生諸君が新聞やTVニュースで報じられる経済問題や社会問題を理解できるようになること。また、卒業後、社会人としてキャリアを積んでいく際に、自学自習できる基礎を養うこと。この2点を授業の到達目標とする。経済学を本格的に学んだことのない人が大半であるので、様々な現実の事例に言及したり、基本的な事項をその都度、確認していくなど、できるだけわかりやすい講義を心がけたい。

授業計画

週	単元	内容	予習/復習
＜経済学の基礎知識＞			
第 1 週	資本主義経済の歴史と理念	資本主義と社会主義、ケインズ経済学、市場原理主義	予)シラバスに目を通し、授業概要を把握 復)授業概要の確認と経済学の基本的な考え方について見直しておく。
第 2 週	市場と経済主体	市場メカニズム、様々な市場	予)参考文献①をできれば読む。 復)前回の経済学の考え方および資本主義経済の特徴との関わりで市場について見直しておく。
第 3 週	経済政策	財政金融政策、産業政策	予)参考文献①をできれば読む。 復)市場に政府がどのように介入するかを整理する。
第 4 週	グローバル市場の展開	国際取引、為替相場、企業の国際的な事業展開	予)参考文献①をできれば読む。 復)身近な国際取引の事例を、自身の場合などどのように考えられるか、想定してみる。
＜戦後の日本経済の歩み＞			
第 5 週	復興期	戦争の被害、民主化、ドッジライン、朝鮮戦争特需	予)参考文献②をできれば読む。 復)復興期の特徴を日本政府の対応と米国政府の対応に分けて整理しておく。
第 6 週	高度成長期前期	高度経済成長の要因	予)参考文献②をできれば読む。 復)なぜ、高度成長が達成できたのかを、総合的に把握しておく。
第 7 週	高度成長期後期中間試験(予定)	高度経済成長の帰結	予)参考文献②をできれば読む。 復)高度経済成長期の問題点を、現在の時点から振り返って、確認しておく。
第 8 週	激動の 70 年代	ニクソン・ショックと石油ショック	予)参考文献②をできれば読む。 復)日本経済が70年代にどのような変化を余儀なくされたかを整理して、理解しておく。
第 9 週	経済大国化への道	輸出の拡大、円高不況	予)参考文献②をできれば読む。 復)80年代の低成長から経済大国化への変化の要因を整理して理解する。
＜現代の経済社会の課題＞			
第 10 週	バブル経済とその崩壊	失われた 20 年	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)バブルが意味したところを、現時点から見直しておく。
第 11 週	規制緩和	雇用の流動化と貧困問題の出現	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)前回の講義内容と重ねて、なぜ新自由主義的政策が採用されたのかをしっかりと理解しておく。
第 12 週	日本社会の成熟化	少子高齢化	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)前回の講義内容を振り返り、日本の経済社会の大きな変化を、経済問題を考察するさいの背景としてしっかりと理解しておく。
第 13 週	グローバル化の進展	発展途上国と日本	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)今も続くグローバル化の波について、講義内容を参考に、現実の動きに重ねて、理解する。
第 14 週	アベノミクス	脱成長は必要か	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)講義での説明をニュース等で報じられる現実のアベノミクスの動向と重ねて、理解を深める。
第 15 週	まとめ	現代経済学の課題	予)新聞などから現状の理解を深める。および、参考文献③④をできれば読む。 復)試験に備え、講義ノートの整理と全体のまとめをする。また、試験問題の説明で取り上げた重要項目に着目して、その内容の確認をする。
第 16 週	期末試験		
成績評価の方法・評価基準		テキスト	
期末試験	70%	教科書は使用しない。	
中間試験	30%	参考書	
小テスト	—%	次の文献は基礎知識の習得に有効な入門書である。なお、①は第1～4週の講義に、②は第5週～第9週の講義に、③④は第10週からの講義に関連する参考書である。	
レポート	—%	①『高校生のための経済学入門』(小塩隆士、ちくま新書)	
演習課題	—%	②『戦後の日本経済』(橋本寿朗、岩波新書)	
平常点	—%	③『成熟日本への進路』(波頭亮、ちくま新書)	
		④『資本主義の終焉と歴史の危機』(水野和夫、集英社新書)	
履修条件・備考			

マネジメントシステム		(選択2単位) 1年前期または2年前期		大坂吉文*
授業テーマ・内容				
マネジメント(management)とは広義の管理を意味し、経営目標を達成するための基本的な活動である。その範囲も開発、設計、生産、流通、安全等多岐にわたっている。本講義では、技術に立脚する事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、技術がもつ可能性を見極めて事業に結び付け、経済的価値を創出していくマネジメントの方法を学ぶ。 最初に経営を取り巻く環境と基本的な枠組みについて、次に具体的に開発、設計、生産、品質、物流について学ぶ。特に、生産システム(モノづくり)、品質管理については、多く時間を割き、具体的現実的な事例を基に講義し、社会人やビジネスマンまたはウーマンになったとき役立つ改善の考え方、手法に触れる。最後には、情報システム管理、安全管理、危機管理も学ぶ。				
到達目標・ねらい				
マネジメントの仕方、改善の考え方、技法を習得することにより、それらを実作業で生かし、社会人やビジネスマンまたはウーマンとして、即戦力となり活躍出来ることを目標とする。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第1週	ガイダンス	授業計画の概要	予)シラバスに目を通し、授業概要を把握しておくこと 復)IEインダストリアル エンジニアリング	
第2週	企業経営	企業経営概論、プロジェクトマネジメント	予)テキスト1、2章熟読 復)PERT	
第3週	製品開発と設計ツール	製品開発プロセス、開発ツール	予)テキスト3章熟読 復)VE/レビュー エンジニアリング	
第4週	ものづくりとIE(1)	生産システム、工程分析	予)テキスト4章熟読 復)生産性とは、工程分析の方法	
第5週	ものづくりとIE(2)	IE、標準時間管理	予)テキスト4章熟読 復)標準時間設定方法	
第6週	ものづくりとIE(3)	効率化へのアプローチ	予)テキスト4章熟読 復)JITとは、MRPとは	
第7週	ものづくりとIE(4)	ラインバランス分析	予)テキスト4章熟読 復)ラインバランス分析法	
第8週	原価管理	原価構成、財務管理	予)テキスト5章熟読 復)固定費、変動費、損益分岐点	
第9週	品質管理(1)	品質の定義・日本の品質管理の歴史	予)テキスト6章熟読 復)製造品質と設計品質、QMとは	
第10週	品質管理(2)	統計的品質管理	予)テキスト6章熟読 復)QC7つ道具	
第11週	品質管理(3)	全社的品質管理	予)テキスト6章熟読 復)新QC7つ道具	
第12週	品質管理(4)	住宅・宅地の品質管理	予)テキスト7章熟読 復)消費者保護、製造物責任	
第13週	ロジスティクス	サプライチェーン、ロジスティクスの動向	予)テキスト9章熟読 復)在庫管理方式	
第14週	情報システム	ICT、情報セキュリティ	予)テキスト10章熟読 復)情報管理の重要性	
第15週	労働安全と危機管理	労働安全管理、メンタルヘルス	予)テキスト11、12章熟読 復)リスクマネジメント	
第16週	期末試験			
成績評価の方法・評価基準			テキスト	
期末試験	70%		初学者向け「技術経営テキスト」-実践向け例題付きー	
中間試験	ー%		大坂吉文他共著 理工図書 2014年3月初版	
小テスト	ー%		参考書	
レポート	ー%		「中小企業経営診断の実務」 大坂吉文他著 TAC 出版	
演習課題	ー%		「生産システム工学」 人見勝人著 共立出版	
平常点	30%			
履修条件・備考				
授業には、電卓、定規を持参下さい。				

キャリアデザインE		(選択1単位) 2年前期		学生部長
授業テーマ・内容				
1年前期～後期に行われたキャリアデザイン A～D の内容をメインに、特に重要と思われるポイントについて、集中的に講義・演習を行い、就職活動に生かすことのみならず、卒業後のキャリアをイメージできる一助としたい。 なお、本講義では、毎回、冒頭(または後半)に①挨拶強化トレーニング②自己表現のための発表(複人数／30～60秒)、③課題のフィードバックを行う。				
到達目標・ねらい				
就職活動のわからないことをわかるように、できないことをできるように、本講義をきっかけに自信をもって就職活動に臨めるように準備していく。具体的には、書類選考に通過する履歴書を「書けるようになること」、そして、履歴書に書いたことを「話せるようになること」を到達目標とする。 そのため、本講義では、受講生の状況やレベルに合わせて、実践的授業を展開し、発表や演習、そのフィードバックを通して自己への気づきを促す。並行し、実践トレーニングを繰り返す体験を重視する。				
授業計画				
週	単元	内容	予習/復習	
第 1 回	オリエンテーション	講座の目的、今後の授業予定を説明する。	予) 本講義の目標(30秒) 発表準備 復) キャリア目標シート作成	
第 2 回	自己分析	自己を振り返り、本学でがんばったこと、自分の強み、企業選びの軸などを中心に言語化する。	予) 本学でがんばったこと(60秒)の発表 復) 自己の振り返りシート作成	
第 3 回	業界研究・企業研究・仕事研究	業界・企業・仕事研究の重要性を理解し、何を、どう調べるのか実践を通して学ぶ。	予) 私の強み(90秒) 発表準備 復) 私の職業観シート作成	
第 4 回	応募企業の探し方	応募企業をどう探し、応募までに何を準備するのか具体的なアクションプランを準備していく。	予) 私の仕事選びの軸について(60秒) 発表準備 復) 志望動機、自己PRシート作成	
第 5 回	履歴書を書く準備	「この人に会ってみたい」と採用担当者に思ってもらえる履歴書を書くための事前準備を行う。	予) 得意な科目(本学の履修科目より選択)(60 秒)発表準備 復) 履歴書の提出①	
第 6 回	履歴書を仕上げる	添削した履歴書の解説を行いながら、自分の書いた履歴書の課題や改善点を見出す。	予) 志望動機(90秒) 発表準備 復) 履歴書の提出②	
第 7 回	面接対策Ⅰ	面接の目的や面接官の視点、また個人面接とグループ面接の違いを理解する。	予) 自己PR(90秒) 発表準備 復) 面接の振り返り＆今後の就活シート作成	
第 8 回	面接対策Ⅱ 今までの講座のまとめ	前回の面接練習時での自己課題を意識し再度、実践でトライし、本番までの課題を認識する。	予) 私の面接と今後の課題(90秒)」発表準備 復) 面接対策を振り返り、就活に繋げる。	
成績評価の方法・評価基準			テキスト	
期末試験	－％		オリジナルレジュメ	
中間試験	－％		オリジナル課題シート提出	
小テスト	－％			
レポート	50％		参考書	
演習課題	－％			
平常点	50％			
履修条件・備考				
キャリアデザイン A、C 両科目単位取得者は履修することができない。				